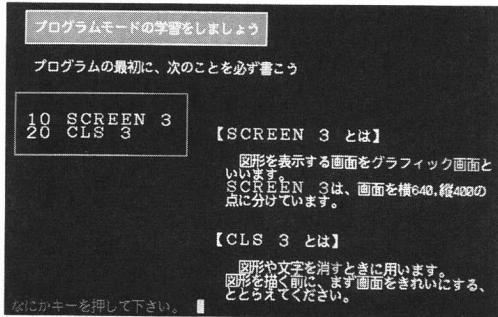


プログラムモードにおいては、演習の画面を設定せずに説明の画面のみとした。演習は本教材を終了させ、DISK-BASIC や DOS-BASIC を立ち上げてから行う。

次に、プログラムモードにおける説明の画面を示す。



4 授業での試行

第3学年の「情報基礎」領域において試行した。指導計画における本教材の取り扱いには10時間で、計算と図形処理に各5時間を配当した。

(1) 本時のねらい

BASIC学習支援ソフトウェアを利用して、プログラムモードにおける計算のプログラムの仕組みや手順を身に付け、目的に応じたプログラムの作成ができるようにする。

(2) 指導過程

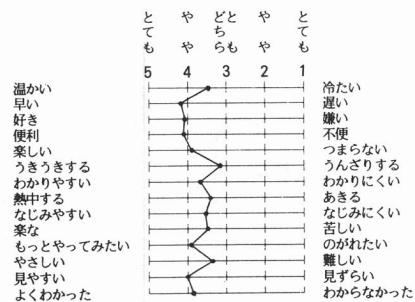
段階	学習内容・活動	時間	支援の方法
課題把握	1. 本時の学習課題を確認し学習の見直しをもつ。 ○ダイレクトモードを復習し、複数の命令文を一度に処理する方法を発表する。 ○本時の課題を確認する。 プログラムモードによるプログラムを作成してみよう。	5	○前時の画面を提示して、検討させる。 ○複数の命令文を一度に処理させた方が便利である例を挙げ、考える際のヒントとする。
課題追究	2. プログラムモードにおけるプログラムの処理の手順を確認する。 ○処理の手順について説明を聞く。 ○整数の和を求める処理の手順を話し合う。 ○ソフトウェアにより処理の手順を確認する。 3. 自己の目的にあった簡単なプログラムを作成する。	35	○日常の行動をアルゴリズムに従って説明し、処理の流れを把握させる。 ○簡単な整数の和を求める等式を板書し、それを基に話し合わせる。 ○ソフトウェアの流れに従って進ませるが、個の学習のペースで取り組ませる。 ○提示画面のリストを基に作成させる。
課題解決	4. プログラムの発表を聞きプログラムモードの処理の手順が適切か確認する。 ○他のプログラムの発表を聞く。 5. くり返しや分岐の命令があることを知り、次時への意欲をもつ。	10	○代表の生徒に発表させ、自己のプログラムと比較しながら処理の手順を確認させる。 ○くり返しや分岐の例を示し、次時への意欲を喚起する。



5 生徒の反応

授業後、生徒に次の(1)~(3)のアンケートを実施した。

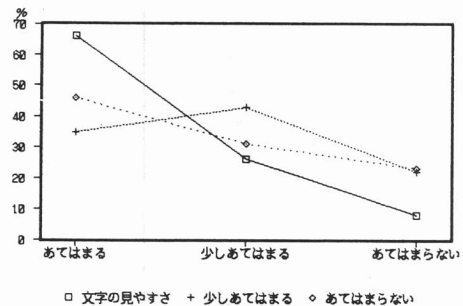
(1) 「BASIC言語学習支援ソフトウェア」についての印象



本教材をどちらかといえば好意的にとらえている。

(2) 「BASIC言語学習支援ソフトウェア」を使用時の感想

- 画面の文字は見やすかったか
- 画面の説明文の意味が分かったか
- リストをとりプログラムを工夫したか



「画面の文字」は見やすかったという生徒が多い反面、「画面の説明文の意味」が理解できなかったり、「プログラムの工夫」ができなかった生徒がおり、プログラムに改善の余地を残した。